

平成 22 年 6 月 9 日現在

研究種目：若手研究（B）  
 研究期間：2008～2009  
 課題番号：20730524  
 研究課題名（和文）特別支援教育において編成される多様な子どもの学習集団での授業実践の教授学的研究

研究課題名（英文）An Pedagogical Study of the Teaching Practices of the Learning Group Organized Diverse Children in Special Needs Education

## 研究代表者

吉田 茂孝（YOSHIDA SHIGETAKA）  
 高松大学・発達科学部・講師  
 研究者番号：60462074

研究成果の概要（和文）：本研究では、発達障害などの「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む学習集団を指導するための枠組みを理論と実践から明らかにした。「特別な教育的ニーズ」のある子どもへの指導は、個別支援が重視され、集団への指導が注目されていない。そのため、わが国とドイツの教育学の理論研究とともに小学校の実践分析から、①集団・グループへの指導の意義と指導方法、②学級指導と授業指導の両方の視点の重要性、③「学習形態の交互転換のある授業」モデルの構造を検討した。

研究成果の概要（英文）：In this research, the teaching methods for the learning groups including children with “special educational needs”, like developmental disorders, are clarified from theory and practice. The instruction to the children with “special educational needs” is focused on the individual supports, instead of attending to a class-group. Therefore, the significance of the instruction to a class-group/small groups and the methods of the instruction, secondly, the importance of having the viewpoints with both classroom management and teaching instruction, thirdly, the structure of the model of “teaching with alternate change in learning forms” are considered by researching the pedagogical theory in Japan and Germany and analyzing the practice in elementary school.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：教育方法学・特別支援教育・授業研究・学習集団・通常学級・カリキュラム・学習形態・ドイツ

## 1. 研究開始当初の背景

| 特別支援教育への転換から、これからは

「障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う」ものとされた。こうして「障害」を伴った子どもだけにとらわれず、あらゆる子どもの教育の可能性を肯定するとともに、子どもにとって必要な支援を導くための指導方法を模索していくことになった。しかしながら、発達障害の子どもへの個別対応はできても、その周りの子どもにはどのように指導していけばよいかは課題である（新井英靖「特別な教育的ニーズを持つ子どもへの支援方法～ADHD児と被虐待児に焦点をあてて～」日本特別ニーズ教育学会編『SNEブックレットNo.1「特別なニーズ教育と学校づくり」』、2007年参照）。こうした課題に対して、わが国では、これまで、「みんなでわかりあう授業の創造を目指す教育実践の目標概念」である学習集団づくりの教育実践が各地で展開された（吉本均『学級の教育力を生かす 吉本均著作選集』明治図書、2006年、1～5巻参照）。今日では、小グループの協同的な学びによって、一部の子どもに限定された学びがすべての子どもの学びへと広がる、佐藤学氏を中心に提唱された「学びの共同体」が試みられている（佐藤学『学校の挑戦—学びの共同体を創る—』小学館、2006年参照）。また、現代ドイツにおいても、個別支援ではなく、むしろ、多様な子どもが存在する学級やグループでの学びが注目されている（vgl., Graumann, O.: *Gemeinsamer Unterricht in heterogenen Gruppen. Vonlernbehindert bis hochbegabt.* Julius Klinkhardt Verlag, Bad Heilbrunn, 2002, Gudjons, H. (Hrsg.): *Handbuch Gruppenunterricht.* Beltz Verlag, Weinheim, 2003, 2. Aufl. (1. Aufl. 1993))。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、「特殊教育から特別支援教育への転換」から、「特別な教育的ニーズ」のある子どもばかりではなく、そうした子どもを含んだ多様な子どもたちで編成される学習集団を、わが国の授業研究の動向とともに、教授学研究の盛んなドイツを中心に検討し、多様な子どもたちで編成される学習集団を指導する授業方法を開発することである。

## 3. 研究の方法

本研究では、特別支援教育において個別支援を重視する傾向から、個別形態以外の一斉形態、小集団（グループ）形態といった学習形態に焦点をあて、国内外の文献研究と教育現場での授業研究を行った。具体的には以下の通りである。

(1) わが国の特別支援教育の研究動向とともに、現代学習集団の研究動向を、国内外の関係図書・資料から、特別支援教育における授

業論の研究動向、特に通常学級における授業を中心に、①学習活動への参加、②集団への指導、③カリキュラムという3つの課題を考察した。

(2) 国内の文献を中心に、授業展開における一斉指導での教師の働きかけ、個別支援の方法、小集団の意義といった学習形態を、学級という集団を念頭におき、特別支援教育の視点から検討した。

(3) ドイツの文献を中心に、現代ドイツにおいて注目されている協同学習に焦点をあて、授業におけるグループ活動の実践形態を考察した。

(4) 多様な子どもたちで編成される学習集団での授業成立の条件となる要素を抽出するため、学級指導と授業指導の両方の視点と、その関係性について実践分析を行った。研究対象としては、香川県内の小学校を中心に一定期間、授業研究を行った。そのさい、広島県内、長崎県内の小学校での授業研究で明確になった論点を参考にした。なお、各地の授業研究では、湯浅恭正教授（大阪市立大学）、深澤広明教授（広島大学）、宮原順寛准教授（長崎県立大学）にそれぞれ協力、助言を頂いた。

(5) ドイツ渡航において意見交換した Herbert Gudjons 博士（元ハンブルク大学）の助言などから文献を収集し、高木啓准教授（千葉大学）の協力を得て、ドイツ教育学における異質な学習グループに関する議論を整理し、教授—学習過程において強調されている「個別化」に着目して、異質性と個別化の関係を検討した。

(6) こうして明らかになった理論的・実践的な視点を参考にしながら、多様な子どもたちで編成される学習集団を指導する授業方法を開発するため、特別支援教育における「学習形態の交互転換のある授業」モデルの構造を検討した。

以上の考察や実践分析から、成果報告を日本教育方法学会、中国四国教育学会、全国私立大学教職課程研究連絡協議会などの学会や研究会で発表した。こうした学会や研究会に参加することで、各地の実践家及び研究者との意見交換を行うことにより知見を得て交流し、理論だけではなく、実践的な視点もふまえることが出来た。

## 4. 研究成果

(1) 特別支援教育における通常学級の授業論の研究動向から、インクルーシブ教育の影響を受けた研究課題を以下の3つに整理し、考

察した。

①学習活動への参加に関する研究課題からは、参加を強制させるのではなく、「特別な教育的ニーズ」のある子どもの視座から、多様な参加のあり方自体を問い直す必要性が浮き彫りになった。

②集団への指導に関する研究課題からは、個別支援の必要性とともに、集団を指導する授業づくりが指摘された。また、通常学級では、授業づくりと集団づくりの相互作用的な関係を見直すことが課題として明らかになった。

③カリキュラムに関する研究課題からは、「特別な教育的ニーズ」のある子どもでも、通常のカリキュラムにおいて支援のあり方を工夫することで、学習活動に取り組む可能性が導かれた。なお、特別支援学校・学級において展開している内的分化論は、「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む通常学級の授業において、検討課題であることが明らかになった。

(2)「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む通常学級での授業展開における学習形態を検討した。その結果、授業展開における教師の教授行為に焦点をあてることで、特別支援教育における個別支援の問題が浮き彫りになった。また、個別支援だけを強調するのではなく、集団を指導する授業づくりの要請から、一斉指導の意義が確認された。さらに、特別支援教育における個と集団の関係性を問うことで、特別支援教育における小集団の教育的効果と成立条件が明らかになった。ただし、すべての子どもに集団や小集団への参加を強制するのではなく、参加しなくても排除されないという意識づくりを行う視点も明らかになった。

(3)現代ドイツで展開されている授業実践の形態に関する研究動向の一つである協同学習に焦点をあて、ドイツ教育学において注目されているグループパズルやグループラリーといったモデルを通じた協同学習のあり方を提示した。さらに、授業におけるグループでの活動をより効果的にするため、グループの発達についてチームという視点に焦点をあて、チームとしての協同のあり方、を明らかにした。そのさい、一時的なグループを編成して協同するだけではなく、グループを高めていくことで、チームとして協同することが学級指導と授業指導の両方から構想されていた。

(4)一定期間継続して授業研究を行った小学

校の通常学級におけるビデオと手書きのメモによる授業記録とその分析から、発達障害などの「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む多様な学習集団における授業成立に必要な条件について、学級指導と授業指導の2つの視点から検討した。その結果、学級において「つながり」のある安定した人間関係の形成と授業参加に関する要素を抽出し、授業成立の条件として、子ども同士の「つながり」をつくり出す重要性が明らかになった。具体的には、第一に、子ども同士がつながっていない「関係ない」学級から、つながりを介した「関係ある」学級、集団意識や仲間意識のある学級への転換が求められる。第二に、授業では、個人差が露骨になるため、通常学級では学級の子どもたち一人ひとりに配慮しなければならない。そのため、「特別な教育的ニーズ」のある子どもを支える関係づくりが必要である。

(5)ドイツ渡航での文献収集などをふまえ、異質性をめぐるドイツ教育学の動向を個別化との関係性から検討することで、第一に、分化や個別化の議論の活発化、第二に、オルタナティブな学習配置とモニタリングの視点、第三に、協同を見通した個別化の視点、を明らかにした。

(6)通常学級における「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含んだ多様な子どもたちで編成される学習集団において、「特別な教育的ニーズ」のある子どもとその子どもを取り巻く子ども集団とがつながっていくための授業方法を検討した。特に、教師の教授活動に共通する一定の法則について、学習集団研究の中に見られる「学習形態の交互転換のある授業」モデルに焦点をあて、特別支援教育における「学習形態の交互転換のある授業」モデルの構造を検討した。その結果、「特別な教育的ニーズ」のある子どもを含む学習集団を指導するための授業モデル開発の試みとして、第一に、特別支援教育において重視される「特別な教育的ニーズ」のある子どもへの個別支援の視点、第二に、個別形態以外の一斉形態や小集団形態によって「特別な教育的ニーズ」のある子どもを取り巻く子ども集団への指導の視点から、理論的・実践的な枠組みとなる従来のモデルの留意点を提起した。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

①吉田茂孝、特別支援教育における学級指導と授業指導のあり方—通常学級における実

実践分析を通して－、教師教育研究（全国私立大学教職課程研究連絡協議会）、査読無、第23号、2010年、pp.73-83

②吉田茂孝、特別支援教育における「学習形態の交互転換のある授業」モデルの構造、研究紀要（高松大学）、査読無、第52・53合併号、2010年、pp.187-200

③吉田茂孝・高木啓、「異質性」をめぐるドイツ教育学の動向－「個別化」との関係性から－、研究紀要（高松大学）、査読無、第52・53合併号、2010年、pp.201-217

④吉田茂孝、現代ドイツの授業におけるグループ活動の実践形態、学校教育研究（日本学校教育学会）、査読有、第24号、2009年、pp.171-183

⑤吉田茂孝、特別支援教育における授業論の研究課題－通常学級における授業を中心として－、高松大学紀要、査読無、第51号、2009年、pp.117-128

〔学会発表〕（計5件）

①吉田茂孝・高木啓、「異質性」をめぐるドイツ教育学の動向－「個別化」との関係性から－、中国四国教育学会第61回大会自由研究発表、2009年11月21日、島根大学（島根県）

②吉田茂孝、特別支援教育において編成される学習集団での授業づくり－他者との対話やかかわり合いに焦点をあてて－、日本教育方法学会第45回大会自由研究発表、2009年9月27日、香川大学（香川県）

③吉田茂孝、特別支援教育における学級指導と授業指導のあり方－通常学級における実践分析を通して－、全国私立大学教職課程研究連絡協議会第29回研究大会分科会発表、2009年5月24日、福山大学（広島県）

④吉田茂孝、特別支援教育における授業論の研究動向－通常学級における授業の課題－、中国四国教育学会第60回大会自由研究発表、2008年11月29日、愛媛大学（愛媛県）

⑤吉田茂孝、特別支援教育における授業展開の教授学的検討－通常学級という集団への指導方法を中心に－、日本教育方法学会第44回大会自由研究発表、2008年10月11日、愛知教育大学（愛知県）

〔図書〕（計1件）

吉田茂孝、明治図書、特別支援教育を変える授業づくり・学級づくり1 芽生えを育む授業づくり・学級づくり（担当分・第Ⅶ章：どの子にもわかりやすい授業展開の工夫）、2009年、pp.101-114

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉田 茂孝 (YOSHIDA SHIGETAKA)  
高松大学・発達科学部・講師